

P-5 コンポジットレジン材の臨床成績
(第1報) 乳前歯に充填した場合

細矢由美子, 冨永礼子, ○嘉数恭子,
西口美由季, 後藤譲治

長大・歯・小児歯

目的: 充填時の年齢が1歳2カ月~7歳10カ月の患児68名の乳前歯185歯について, 1人の術者が行ったレジン充填を最短7日, 最長2303日に亘って観察した。

観察対象: 充填時年齢別処置歯数は, 1歳: 7歯(1.6%), 2歳: 18歯(9.7%), 3歳: 68歯(36.8%), 4歳: 44歯(23.8%), 5歳: 31歯(16.8%), 6歳: 12歯(6.5%), 7歳: 9歯(4.9%)であった。歯種別処置歯数は, 上顎乳中切歯: 62歯(33.5%), 上顎乳側切歯: 50歯(27.0%), 上顎乳犬歯: 27歯(14.6%), 下顎乳中切歯: 16歯(8.6%), 下顎乳側切歯: 6歯(3.2%), 下顎乳犬歯: 24歯(13.0%)であった。診断名別処置歯数は, C₁: 17歯(9.2%), C₂: 148歯(80.0%), C₃: 20歯(10.8%)であった。窩洞形態別では, V級: 46窩洞(19.7%), III級: 168窩洞(72.1%), IV級: 15窩洞(6.4%)であった。観察日数は, 300日未満: 72歯(38.9%), 300日~600日未満: 60歯(32.4%), 600日以上: 53歯(28.6%)であった。前処理は7種類, コンポジットレジン材は6種類を使用した。

結果及び考察: 1). 充填直後の色調は, 良好: 71例(38.4%), 普通: 96例(51.9%), 不良: 18例(9.7%)であったが, 時間の経過と共に不良例が増加した。2). 充填物の変化として, 辺縁着色: 18例(9.7%), 辺縁の間隙: 2例(1.1%), 辺縁破折5例(2.7%), 強度の磨耗: 2例(1.1%), 亀裂: 2例(1.1%), 変色: 28例(15.1%), 一部もしくは完全脱落: 31例(16.8%)が観察された。3). 歯質の変化として, 変色: 5例(2.7%), 破折: 1例(0.5%), 2次齲蝕: 2例(1.1%), 原発齲蝕: 12例(6.5%)が観察された。4). その他の臨床症状として, 歯肉の発赤, 腫脹, 疼痛が2例(1.1%)に観察された。5). 充填物の一部もしくは完全脱落は, 充填後1年以内に生じる事が多く, 脱落率は, LaMLiIn窩洞(33.3%)が最も高かった。6). 充填物の脱落は, 象牙質接着性の前処理材使用時に多発する傾向があり, 同一個体について多発する傾向もみられた。

P-6 乳臼歯の先天欠如および埋伏過剰歯を伴った一症例

○三善貴夫 岡本佳明 大久保和之
石川博文 瀬尾令士

小児歯科研究会 B. P. C.

小児歯科臨床において乳歯、永久歯歯胚の先天欠如および過剰歯などの発現を見ることは多い。しかし、上顎左右第2臼歯が共に先天欠如している報告は稀である。

今回、演者らは上顎左右第2乳臼歯の先天欠如および上顎左右前歯部において過剰歯を伴い、且つ、上顎前歯部において交叉咬合を有する1症例に遭遇したので、その概要について報告する。

症例: 昭和56年6月1日生まれ 男児

初診: 平成2年8月6日 9歳10カ月

主訴: 前歯部の審美障害

家族歴: 特記事項なし

既往歴: 出生後、A|Aを抜歯したこと以外
歯科治療の既往歴は認められない。

□腔内所見:

6 DC 1|1 CD 6
6 EDC 2|1 2 CDE 6

Hellman のDental age はIcで2|1|2は僅かに叢生が認められる。|1|1は大きく離開し唇側に転位しているものの前歯部の咬合状態は交叉咬合状態を呈している。E|Eは欠如し萌出スペースは不十分である。

模型所見:

Hellman の歯齡はIcで、overjet は-3.5mm overbiteは3mmであった。

×線所見:

○上顎正中部に2本の過剰埋伏歯が認められ、1側の過剰歯は逆性位にあり歯根部が吸収しており、その吸収は歯冠部に波及している。1側の過剰歯は同様に逆性位にあり根は吸収されていない。

○E|Eは欠如し、その萌出スペースも喪失し十分でない。また、後継永久歯(5|5)の歯胚は認められるもののE|E相当部の歯槽骨は正常で、抜歯等の既往跡は認められない。